

彼女のスカートの名前は

彼女のスカートの名前はマゼンタ

太陽のフレアで織られた

炎のプリーツ

彼女のスカートの名前はシアン

原始の猛毒の海で染めた

覚醒の青

彼女のスカートの名前はダークホワイト

白い闇から出現れた

透き通った純白

彼女のスカートの名前はブライトブラック

聖なる場所から生じ全てを優しく抱擁する

母なる黒

ジヨバニの泪

指先に触れそうな現実が毀れてゆくよ

最終列車が夢の始まりの駅を離れ

アナタがふりかえるとそこに居た

白い夏服姿でじつと私を凝視している

「ウレシイ…ココへ来てクレタノネ…」

アナタの現実が私の夢で

私の夢がアナタの現実

哀しいはずの泪があたたかくなってゆく

さっきまでステンレスのポールにもたれていたこの額に

銀色の両手が私の脳へ直に触れるの

「ウレシイ…アナタノ手…ココニ居ルノ？」

そつと指が目隠をはずす

服を開くと誰もいない空の車内

夜の街がぼんやりと遠去かってゆく

零れそうな泪を隠すように眼を閉じる

ひとつ

ふたつ

みつつ数えて眼を開けると

泪はアナタを包んで零れたの

秘密の声でアナタの名を呼ぶ

「ウレシイ…ソコニ居ルノネ」

氷の粒の泪が溶けてそこへアナタが現れた

「つかまえた」

あなたの背中へ手をまわす
もうここは私の夢の中

くじらの体内で二人背骨に掴まって海の中
暖流のレールの上をどこまでも行く

「ズット一緒ヨ夢ノ中デハ：モウ少シ冷メナイデイテ」

どこかで十二時の鐘が鳴る

現実という駅へやはり到達してしまったのね

やはり降りなくちゃいけないのね

私の泪

冷めたいの？

暖かいの？

凍ったの？

ねえあなたこの場処じゃ未だ私解らないの

仔天狗

我は天狗ぞ

仔天狗ぞ

人の仔からかいに町へ行く

我は天狗ぞ

仔天狗ぞ

人の仔木の上から見下ろして

ちろりと舌出し笑うなら

鼻を折られて痛くて哭いて

山へいそいそ帰りけり

我は天狗ぞ

仔天狗ぞ

親天狗

困った仔だと笑うれど

親天狗

仔天狗

皆天狗の仔天狗他ならず

大哭き仔天狗

天狗の仔

親天狗困らせる天狗の仔

我は天狗ぞ仔天狗ぞ

天狗他ならず天狗の仔

今日も木の上から天狗の仔

鼻を折られても天狗の仔

我は天狗ぞ天狗の仔

我は天狗ぞ仔天狗ぞ